

# いすみ鉄道の歴史

明治	32年 12月	房総鉄道（外房線）大原まで開通	
	43年	県知事に軽便鉄道敷設の請願	
大正	44年 6月	大原・大多喜間に軽便鉄道敷設計画を出願	県 営 人 車 軌 道
	44年 7月	大原・大多喜間の軌道が免許、県債券 85,000円	
	元年 12月	県営人車軌道線 大原・大多喜間約 15 km 開通 停車所 4 停留所 3 待避所 2	
	2年 3月	大多喜町桜台の代表 千葉・東京に鉄道敷設計画の偵察	
	6年	人車の利用者、1日約 150人余り	
	7年 末頃	乗客数 35,541人、職員 6人、乗車手 19人、貸車夫 1人 8人乗り客車 10両 4人乗り客車 10両 貸夫 37両	
	9年	人車軌道線の経営権、民間に貸与	夷 隅 軌 道
10年	人車軌道線 3万円で譲渡、夷隅軌道株式会社設立 10人乗り軌道車導入 大原・小浜間軌道延長		
昭和	2年	国鉄、夷隅軌道株式会社を買収改良工事に着手	木 原 線  国 鉄 時 代
5年 4月	木原線大原・大多喜間 15.9 km が開通		
7年	蒸気機関車 C12型、木原線に導入		
8年 8月	大多喜・総元間が延長開通		
9年 8月	総元・上総中野間が延長開通 営業距離 26.8 km		
12年 2月	東総元・西畑の両駅設置 ガソリンカー運行		
19年	女性職員登場 太平洋戦争で軍需物資を輸送		
29年 9月	ディーゼルカー・レールバスが導入		
35年 6月	新田野・小谷松・久我原の各駅設置		
36年	レールバス廃止		
44年 9月	木原線の貨物輸送廃止		
47年	房総東線が外房線と改名、全線電化		
54年 12月	「日本国有鉄道の再建について」閣議決定 ”輸送密度 2,000人未満路線”の廃止と、 バス・第3セクターへの転換決定		
55年 2月	全国知事会で地方交通線対策緊急要望書提出		
3月	大多喜・夷隅・大原町議会で木原線存続を決議 2月県議会で木原線存続の請願採択		
4月	大多喜で木原線存続の総決起大会開催		
5月	地元 1市 5町に国鉄木原線対策協議会を設置		
56年 12月	木原線特定地方交通対策協議会で輸送密度 2,000人を達成目標 以降木原線乗車運動を実施		
61年 11月	木原線の第三セクター方式での存続を承認		
62年	4月	国鉄改革法で国鉄から東日本旅客鉄道株式会社（JR）運営	JR 木 原 線
	6月	いすみ鉄道株式会社創立総会開催	
	7月	いすみ鉄道株式会社設立登記	
63年 3月	23日でJR木原線廃止	い す み 線	
	24日からいすみ鉄道営業開始、いすみ鉄道開業記念式典挙行  ワンマン運転 車両 7両 社員 31名 営業距離 26.8 km		